

# 献 呈 の 辞

新潟大学法学会会長

上 山 泰

この度、沢田克己先生は2024年3月末をもってご定年を迎えられ、本学を退職されます。

新潟大学法学会会員一同、沢田先生のこれまでの長年のご貢献に心より感謝し、そのご業績を讃えて、ここに「法政理論」の記念号を献呈させていただきます。

沢田先生は、新潟大学法文学部をご卒業後、新潟大学大学院法学研究科修士課程にて、小島康裕先生のご指導の下で学究の道を歩み始められました。その後は、京都大学大学院法学研究科博士後期課程に進まれ、龍田節先生の下でさらにご研鑽を積まれました。

1986年4月に新潟大学法学部に助教授として赴任され、1992年4月に教授にご昇任されました。また、本学在籍中に2度にわたりアレクサンダー・フォン・フンボルト財団研究給費生としてドイツでの在外研究に携わられています。

沢田先生は、法学部・大学院法学研究科および大学院現代社会文化研究科において、主に経済法及び国際経済法をご担当になりました。また、優れた語学力をいかに発揮され、英語による講義・演習も数多くご担当され、カナダ・アルバータ大学法科大学院においても2年に渡って講義を担当されました。

先生の本学へのご貢献を思い起こしたとき、先生が培われてきた海外の研究者等との学術的な国際交流の成果が、新潟大学法学部の国際交流の礎となってきた事実を忘れるわけにはまいりません。交換留学をはじめとして、海外の交流協定校との連携が円滑に実施されてきた背後には、先生の並々ならぬご尽力がありました。特にミュンスター大学との交流が、同校

からの招聘教員による講義の提供にまで及ぶ、きわめて実りの多いかたちで実施されてきたことは、沢田先生の存在を抜きに語ることはできません。先生の国際交流に関するご活躍は、教育面でも多くの成果を生み出しています。海外留学を経験した法学部の学生の多くが、先生のご助言や手厚いサポートに助けられたことと思います。また、大学院生、研究生として海外からの留学生を幅広く受け入れ、数多くの有為な人材を育成されてきました。

研究面においては、経済法及び環境政策の分野で、著書（共著）7冊、論文39編、審決・判例研究18編、翻訳7編と数多くの研究業績を残してこられました。先生のご業績は、経済法のまさに中核をなす独占禁止政策にはじまり、近年ではEU排出量取引制度等に関する精緻な分析に象徴されるように、特に法と環境政策の分野に深いご関心を寄せておられたように拝察されます。比較法の対象も、ドイツはもとより、アメリカ、イギリス、カナダ、さらにはEUに及ぶ幅の広いものであり、先生の学識の深さの一端を示すものでしょう。

先生のご活躍は、学外の社会貢献活動にも及びます。主だった現職だけでも、国土交通省北陸信越地方交通審議会船員部会会長、新潟県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員長、新潟市消費生活審議会会長、新潟市情報公開制度運営審議会委員長などを務めておられます。また、先生が新潟大学全学同窓会及び人文・法・経済学部同窓会において長年にわたり重責を担われてきたことは、先生の母校への深い愛情を伺わせるものです。こうしたご活動を通じて、ご退職後も本学との固い絆が続くことを強く望みたいと思います。

あらためまして、本年3月にご定年にて退職されるにあたり、これまでの新潟大学全体、ならびに多くの学生、社会への多大なるご貢献に心より感謝申し上げますとともに、今後もお元気でご活躍されますことを、新潟大学法学会会員一同ご祈念申し上げます。

2024年3月吉日